

コーポレートガバナンス・オブ・ザ・イヤー 2024

Grand Prize Company/ Winner Company 選定プロセス

概要

東京証券取引所プライム上場企業を対象とし、コーポレートガバナンスを用いて、中長期的に健全な成長を遂げるために、取締役会の改革を実践している企業、コーポレートガバナンス・コード¹を遵守し、CGSガイドライン²を踏まえた取り組みを行う企業を表彰します。

表彰社数は、本年は Grand Prize Company を 2 社選出し公表します。毎年 1 回、表彰を行います。

実施内容

審査のポイントは、審査において、1)コーポレートガバナンス・コード全原則が適用される東証プライム上場企業(1,643 社、2024 年 8 月 1 日にコーポレートガバナンス報告書が東証 HP にて確認できる企業数)の中から、2022 年～2024 年を通じて独立社外取締役 3 名以上を選任していた企業 1,376 社を対象に、2)稼ぐ力の指標として、非金融 3 年平均 ROE10%以上³、ROA5%以上、金融 3 年平均 ROE10%以上、ROA2%以上、また 3)社会への貢献度の指標として時価総額 2,000 億円以上である企業 203 社を選びました。

次に加点要素として、4)ガバナンス体制整備の指標として、特定の大株主がない、開かれた株主比率(30%以下)、独立社外取締役比率(3分の1以上)、組織形態(指名委員会等設置会社)、指名・報酬委員会(任意も含む)の設置、5)取締役会の多様性(女性役員、外国人役員の人数)、6)指名・報酬委員会(任意も含む)委員長の独立性、取締役会議長の執行からの独立性、7)パフォーマンス評価として、みさき投資による経営指標分析を活用、時価総額や営業利益の安定性などの総合評価を行い、最後に 8)審査委員によるトップマネジメントへのインタビュー調査を行い、Grand Prize Company 2 社を決定しました。

候補企業群の経営力の判定には、みさき投資の企業分析の枠組み「みさきの黄金比[®]」を活用しました。これは経営指標間のあるべき関係、「 $ROE \geq ROIC \geq ROA \geq WACC$ 」を示した式で、左から「事業リスクに見合った財務リスクの取り方」「余剰資産を持たない経営」「資金提供者の期待リターンを上回る資本生産性」という観点を満たしているかを評価する枠組みです。

みさきの黄金比 [®]								
企業名	時価総額 (億円)	ROE		ROIC		ROA		WACC
富士通	56, 593	13.6	≥	10.3	≥	7.5	≥	7.2
リクルート ホールディングス	142, 843	20.6	<	22.7	≥	15.1	≥	9.8

※ みさき投資株式会社 『働く株主[®]』をコンセプトとしたエンゲージメント投資を専門とする資産運用会社。2013 年に設立され、現在企業年金・大学基金など国内外の投資家から資金を受託し、日本の優れた上場企業 10 数社に厳選した長期投資を行っています。

¹ 令和 3 年(2021 年)6 月再改訂(東京証券取引所)

² 令和 4 年(2022 年)7 月再改訂。コーポレートガバナンス・システムに関する実務指針(CGSガイドライン)の重要項目を考慮する。

³ 伊藤レポート「持続的成長への競争力とインセンティブ～企業と投資家の望ましい関係構築」プロジェクト最終報告書(平成 26 年(2014 年)8 月)。金融業は ROA など他の指標も考慮する。